

## 市東さん農地強奪阻止！空港機能強化粉碎！ 闘う全人民の団結と決起を！

2・14千葉地裁の審尋、そして3・2請求異議裁判第1回弁論は、まさに「強制執行」臨戦態勢として闘いました。71年の大木よねさん宅以来の家屋と農地への「強制執行」という暴挙に対して、反対同盟はもちろん三里塚を闘う全ての人の怒りの火

### 請求異議裁判こじ開ける

「はなれ」に、「強制執行、来るなら来い」「市東さんと共に身体を張って闘うぞ」を合言葉に決戦本部を立ち上げました。

に油を注ぎました。この闘いの炎が、空港会社の「強制執行策動」を打ち破る最高裁判決後の極めてまれな「請求異議裁判」をこじ開けました。決戦本部は、毎日毎日の朝会議をや

「私も頑張ります」と元気に再来を誓い、自分の闘う現場に帰られます。最近、「第3滑走路建設計画用地」等の現地見学にも参加が増えていま

とともにも闘うことの始まりとしています。「三権一体の夜襲を常套手段」とする「強制執行」と身体を張って闘うことを実現させる陣形こそが、市東さんの闘いを守る前提だからです。もし万が一「強制執行情勢」が来たときは、決戦本部に駆けつけ、

「天神峰カフェ」では、「はなれ」で昼食をとり、コーヒーを飲み、三里塚のDVD等を見て、市東さん、萩原さんの畑や空港完成を阻む天神峰や東峰をじっくり身体に焼き付け



2017年反対同盟団結旗開き (1月9日 成田市)

## 決戦本部アピール

決戦本部長 太郎良陽一

昨年10月25日の最高裁の不当判決から1年になろうとしています。また、「空港機能強化策」―「第3滑走路建設計画」との闘いも正念場を迎えています。この1年間、三里塚闘争の飛躍が本当に問われてきました。

私たち反対同盟は、「強制執行に身体を張って闘う」ことを、昨年の12・4現地緊急闘争で確認しました。このことを力に、本年冒頭、1・9

泊まり込み、守り抜こうでありませんか。

### 闘いへの共感広がる

この決戦本部の闘いは、市東さんが不屈に闘い、悠然と農地を耕す姿への共感を生み出しながら、これまでの三里塚勢力にとどまらず、市東さん署名活動―周辺情宣をバネに全国の闘いに、そして周辺住民の中にたちまち広がりました。

この10ヶ月の間に市東さんの「はなれ」には、毎月開催してきた「天神峰カフェ」や「艦樓の旗」上映会を積み重ねることで、延べ200人以上の新しい仲間が訪れてくれました。

「天神峰カフェ」では、「はなれ」で昼食をとり、コーヒーを飲み、三里塚のDVD等を見て、市東さん、萩原さんの畑や空港完成を阻む天神峰や東峰をじっくり身体に焼き付け

## 住民の生活と闘いを守る

さらに空港周辺地域の情宣は、「空港機能強化策」攻撃を阻止するために、毎月1回に止まらず、周辺住民へのビラ入れや討論も常態化できるように飛躍的に強化されました。そのなかでは私たち反対同盟の闘いに合流する仲間もできています。

周辺住民の反対の声を集合した住民組織が芝山町と横芝光町で立ちあがりました。さらに各地で空港機能強化策反対の看板が立てられています。

### 反対運動破壊許さず

しかしこの「新たな反対運動」の登場と反対同盟の闘いの前進に焦って、「脱落派」石毛・相川だけでなく、石井新二がここに来て泡を吹いて登場してきました。石井新二は、78年管制塔占拠闘争への権力の弾圧

の拡大なのです。これから三里塚現地の闘いは、いよいよ正念場を迎えます。「空港機能強化策」の住民説明会が始まり、これを粉碎する闘いを開始します。

### 裁判闘争へ決起を

さらに市東さんの農地を守る裁判として11・6請求異議裁判―11・20耕作権裁判がありますが、他にも3つ裁判が千葉地裁で闘われています。どの裁判も法廷が「元氣な闘いの劇場」と化しています。弁護団と傍聴団が一体になって、空港―行政、裁判長にごまかさ

### 現地攻防は正念場

全国の三里塚に注目をする皆さん！「第3滑走路建設計画」とは、今の空港を2倍にする途方もない広大な農地―自然破壊と住民叩き出し、そして騒音地獄

### 改憲・戦争の安倍政権打倒を！

最後に、今回の安倍による解散―総選挙。小池百合

ささないという裁判を毎回闘っています。是非、千葉地裁での裁判闘争にも参加してください。

### <スケジュール>

#### 市東さんと団結し闘おう！

- 第3誘導路裁判 10月24日(火) 10時30分
- 新やぐら裁判 10月30日(月) 10時30分
- 請求異議裁判 11月6日(月) 10時30分
- 耕作権裁判 11月20日(月) 10時30分

※裁判はいずれも千葉地裁601号法廷。傍聴券の抽選・配布があるので、開始30分前にはお集まり下さい

- 天神峰カフェ 10月29日(日)
- ※市東さん宅離れ「決戦本部」



子の希望の党、民進党解党、わりをもとめて闘いますの等々許すまじきことが起こっているなかで、改憲―戦争―弾圧の一層激化する政治情勢が出現しました。「三里塚に勝って戦争をとめよう」と言った故北原さんの遺志を引き継ぐ時がきています。私たちは、労働運動、沖

縄―辺野古、反基地、反原発など様々な闘いの中で、国家権力の暴虐を許さず、身体を張って闘う団結を築く為に、全国の闘いと

# 対談

## 三里塚闘争の攻防点 決戦本部長・太郎良陽一×事務局員・伊藤信晴

### 戦争と改憲許さず

### 決戦本部立ち上げ

伊藤 総選挙情勢を見ても、露骨に改憲勢力が手を結びながら、戦争できる国家にしようとしている。これと三里塚が真つ向から立ち向かう。戦争のための地方切り捨てや労働運動破壊と闘う住民や労働組合と共に総反乱をつくりだしたい。

太郎良 今年から市東さん宅離れにかまえた決戦本部では、天神峰カフェや現地調査、一斉行動などを広くよびかけ、徐々に闘いが伝わってきている。

伊藤 いつもブログをチェックしてくれていたたり、「今度の集会に行く」と声をかけてくれることも多くなつた。

太郎良 国家・資本と体を張って闘う人たちの結集軸になる気概で、現実には運動をやっている人たちともっと具体的な交流や活動をつくりだしたい。



太郎良 窓口となってくれの人を3桁以上つくってきたと思う。かつて萩原進さんが「全国住民運動の司令塔になる」と言ったときに「思い上がりだ」と批判する人もいたけど、党派もそうでない人もみんなが共同でやれる闘いを作ってきているのはやっぱり三里塚だ

### 裁判闘争の前進

太郎良 三里塚裁判のあり方もすごく変わってきた。

伊藤 やっぱり一つ一つが市東さんの存在そのものを否定するような裁判だから戦場化してきている。第3誘導路裁判にしても、国は市東さんに「原告適格がない」なんて言っている。でも、逆に攻撃を打ち返すことで、全ての人の生きる権利を守る闘いになっている。

太郎良 市東さんの闘いが全ての人々の希望になっていく。現地を訪れた人は、市東さんの家の周りの状況や畑の土の豊かさにみんな

太郎良 石井らの策動を打ち砕くためにも、市東さんの農地を守る闘いを発展させ、空港機能強化に怒る住民との連帯、全国の農民・労働者民衆との共闘を大きく作り出そう。

られていた。「シンポ・円卓会議」の狙いは反対運動をつぶすこと。もし国家暴力で強行的にやるとなると、団結が健在である以上、闘いは大きく非和解的になる。

伊藤 国家権力の手先となつて闘争破壊に生命をかけている。石井はかつて「一億円でヒットマンを雇っている」と公言していた。

伊藤 そういう人をなめきつた考えは一貫している。「3・8」分裂攻撃(※)のときも敷地内の決起を彼らはみすえられない。党派が操っているとしかみれない。そこをずつと見誤っている。

太郎良 「3・8」分裂で反対同盟を破壊された悔しさはやっぱり忘れてはならない。今、一坪再共有化運動を担った石井新二らが、空港機能強化に反対して住民が立ち上がることに對して再び「金を引き出せばいい」と条件闘争に持ち込も

### 市東さんの農地守り 共闘を大きく

伊藤 この間、芝山町議会の傍聴に行ったら、石井から「まだ金にもならないことやってるのか」と言ってきた。住民の決起を金に換えるというのは絶対に許せない。最後の決着をつけないといけない。



おどろく。裁判に来てもらえば、対決軸や権力を追い詰めていることがよくわかる。活気があるし、請求異議裁判など一般常識ではあり得ないような裁判をやっている。



### 機能強化絶対反対 周辺住民と共に

伊藤 空港機能強化は「地方切り捨て」だし、部落そのものの死を意味するような攻撃だ。

敷地内と騒音下住民の生きた関係をもっと築くことだと思ふ。われわれも含めて騒音に対する認識を変えないといけない。金が地域

に入れば豊かになるなんていうのは嘘っぱち。農業に展望を持たないし、高齢化という現実もある。北原さんが言っていたように、世の中を変える闘いを全国とつながってやっていきたい。

太郎良 地域の結びつきが破壊され、すべてをお金を媒介した関係にされようとしている。農業を破壊し、倉庫や工場を持つてくること地域が発展なのか。命とお金は交換はできない。

### 空港推進に転向した 脱落派許さず

太郎良 「シンポ・円卓会議」(※)での国の謝罪や事業認定の取り下げは、反対同盟が闘い続けているために、そうせざるを得なくなったのであって、石毛博道や島寛征がかちとったのではない。

伊藤 当時は二期工事が進まない中で権力も追い詰め

### ※シンポ・円卓会議

91年11月〜94年10月。「闘争継続する反対同盟の社会的抹殺」「反対同盟を屈服させるところにシンポの目的があった」(萩原進『農地収奪を阻む』)

「一部の反対派農家と国が話し合いの席に着いた成田空港問題シンポジウム、同円卓会議で、国はそれまでの強制的な手法を謝罪した。しかし、国側は円卓会議に出した調査団の「所見」(94年)に「用地取得は話し合いにより行う」との文言を盛り込むことを反対派農家にのませた。反対派農家は「これで平行滑走路はできない」と信じたが、国はその後、新滑走路計画を発表。農家にとつてまさに「寝耳に水」だった。」(『東京新聞』02.5.2)

### ※3・8分裂攻撃

「1983年3月のいわゆる反対同盟3・8分裂は、石橋の脱落を契機に同盟を条件派同盟に変えてしまお

うとした連中が中心になり、引き起こした組織分裂です」「実行役員会で石井新二が、旧来からあった一坪共有地を1口1万円、1坪を10口に分けて再共有化することによって総額1億5千万円を集めるという計画を提案」「土地は売らないという反対同盟の大原則をねじまげ、条件闘争のための資金集めであり、実力闘争からの転換をねらったことは明確でした」(北原鉞治『大地の乱』)

「再共有化反対の敷地内を強く支持する立場をとった北原事務局長に対して『中核派にひきまわされている』などと誹謗を開始する。『同盟員を批判した中核と手を切れ』という。分裂が既定路線だったからだ。われわれは承知しなかった。そこで彼らは分裂総会を強行した。だから『3・8分裂』は、彼らの三里塚闘争からの脱落だ」(萩原進『農地収奪を阻む』)